



製薬・ファイブ産業  
視察団レポート

上

日本のおよそ九倍の国土面積と人口を有するインド。GDPは世界十位で、二位の日本と比べると約五分の一ではあるが、二〇三〇年前後には日本を抜き、米国、中国に次ぐ世界第三位に躍進するとの予測もある。貧困層の多さ、インフラ整備の遅れなど多くの課題を抱えながらも、インドは高い潜在能力を發揮し飛躍を始めた。成長の牽引役の一つが製薬および受託医薬産業である。同分野のインド企業と「CPH I (国際医薬品原料・中間体展) インド2006」を訪れたインド視察団(総勢十七人、化学工業日報社主催)をレポートする。(栗原茂実)

きょうのニュース

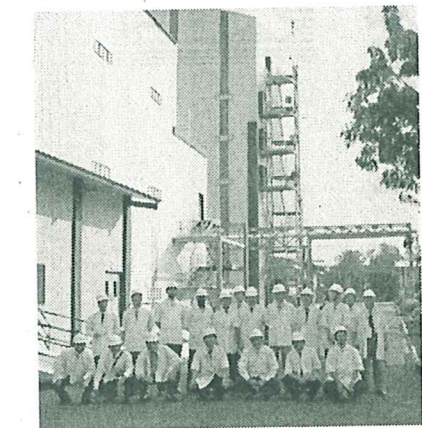
高分子膜で水素ガス  
からCO<sub>2</sub> 選択分離

17面

新規EVOH樹脂の増強検討—クラレ(2面)  
医薬分野で対日受託合成強化—印PI(3面)

グローバル薬の受託  
ファイブ・スペシャ

比してまた希薄な両国産業関係を映しているように感じた。  
二十七日は、インドの製薬業界で四、五番手に位置するニコラス・ピラマル・インディア(NPIL)社のディグワール工場を訪問した。NPIL社の売り上げ規模は約五億五千万ドルで、うち四五%を輸出を含め海外分



NPILのディグワール工場を訪問した視察団

世界で高まる存在感

グローバル買収・提携急増

が占める。インドではシエネリック医薬品・原薬で拡大する企業が多いが、同社は買収やライセンスが大きな原動力。二〇〇五年から〇六年にかけてはローディア、デヒシア、ファイザーの一

近年、インドの製薬・ファイブ系企業が欧州企業などから事業を買収、あるいはライセンスを組むケースが目立ち、インド企業の世界における存在感が増している。ディグワール工場は米

午後ハイデラバードからムンバイ経由でバドダラに行く予定だったが、飛行機の大規模な遅れによりムンバイから一旦アーメダバードに行き、そこからバスで二時間半かけてバドダラに移動。ホテル到着は深夜になった。

(つづく)

新物

近では、日本に活動拠点を置いた。  
翌二十八日午前中は中堅企業のサイ・アドバンチュム・ファーマ社のR&Dセンターを訪問。同センターはインドの大手銀行ICICIが開発したテクノロジープークにある。製剤・プロセス研究開発、中間体・原薬の少量受託合成、分析などを手掛け、情報漏えい防止管理を徹底。「すべての社員に誓約書を書かせ厳格に守らせている」という。  
産業界韓立彪研究ループは骨格にリンせ、プラを損ねる半永久的せる手法表した。リロニとビニルせ共重合ニトリルし難燃性(UL規格)韓研究員カーンなど術の実用としてリン系は、リン